カウンセリングにおける名人芸的なもの (12)

— 仏教思想との関連において③ —

蓮見将敏

(杉野服飾大学)

キーワード：名人芸の境地 名人芸の態度 名人芸の技術

Master Skills in Counseling(12): in Relation to Buddhism③

Masatosi HASUMI

(Sugino Fashion College)

Key Words: Culmination in Master Skills Master Attitude Master Skills

目 的

筆者は、カウンセリングの名人の境地・態度・技術を明確にするために、筆者の臨床事例を内容分析して、04年（日本カウンセリング学会）から、「カウンセリングにおける名人芸的なもの」を提言してきた。

04年の内容を07年（日本心理臨床学会）に修正したカウンセラー（以後Co）の重要な境地・態度・技術と考えられる問題点が下表である。表中の太横線の下はCoの心境等で、上は心境が表面化した行動である。

これまで、間合い（05〈日本心理学会〉、06年）、純粋性（10年）、受容性（08、09年、）直観力と想像力（06年）、生きざま（04年）、境地・態度・技術を総合した問題点（07年）などに関して、分析結果を各学会で発表してきた。

そして、仏教思想の慈悲喜捨という四無量心との関連では、Coの境地・態度・技術を総合した問題点について、Coは「捨と悲の心で、慈と喜をクライアント（以後C1）と共に体験すること」が重要であることを発表した（日本カウンセリング学会、11年）。また仏教思想の無分別智と無分別後智との関連では、Coの純粋性について、Coは「無分別智を踏まえた無分別後智になること」が重要であること、さらに10年の純粋性の発表と関連させて、Coは「無分別智を踏まえた無分別後智の境地で感動すると、真に受容的になること」を合わせて発表した（日本心理臨床学会、12年）。

今回も仏教思想と関連させて、Coの名人芸的なものの境地・態度・技術を総合した問題点と共感について、分析結果を提言したい。

方 法

筆者は種々の臨床現場で、30 数年カウンセリングを行って

きた。カウンセリングにおける名人芸的なものが、10～11年前から脳裏をよぎり出した。それ以降の事例（約1050例）、それは児童から（6歳）から老人（82歳）までの年齢幅のC1、また発達障害児・者、人格障害児・者、あるいは自殺企図児・者から暴力団構成員までの非社会的・反社会的問題者などというC1であるが、その中から精選した、名人芸的なものとして感得した事例（約60例）の中の筆者を内容分析した。先行の11個の研究もその方法と同様である。今回はなかでも特に精選した、ここ2～3年の約10例の筆者の心境等を内容分析した。境地・態度・技術を総合した問題点と共感に焦点を当てて分析した。

結 果 と 考 察

筆者の心境を簡潔に表現すると、「相手に差別せず、平静な気持ちで接して、C1の苦悩などに共感し、C1の苦悩が減少することで、C1の生きる喜びや楽しみに共感して、共に喜び・楽しむ」結果になっている。それは取りも直さず、前述の11年発表の四無量心、慈悲喜捨の動きに他ならない。つまり、「捨」の心で接して、「悲」の心で苦を除き（苦悩への共感が苦悩の減少を生み）、「慈」の心で喜びを与え（喜びへの共感がまた喜びを生み）、「喜」の心で共に喜ぶという「捨悲喜喜」の動きである。なかでも「慈悲」は生きとし生けるものの苦を除き、楽を与えることであるが、今回特にそれを考察する。

浄土宗第三祖・良忠（記主禪師）は慈悲を大慈悲と小慈悲に分ける。仏の慈悲が大慈悲で、余人の慈悲は小慈悲とし、四無量心の慈悲も小慈悲とする。小慈悲とは、苦しみ悩む人に、一時的に精神的身体的な安楽を与えることで、その安楽は苦楽相対の楽であり、楽といえど、その背後に苦を伴う一時的な安楽に過ぎないという。因みに、仏の大慈悲による楽は苦楽を絶した絶対楽であって、苦は存在しない安楽であるという。また慈悲を衆生縁慈悲、法縁慈悲、無縁慈悲と三種に分ける。衆生縁慈悲は人間誰もが持っている凡人の慈悲で、小慈悲にあたる。因みに、仏の大慈悲は無縁慈悲をいう。

11年発表の四無量心の慈悲は小慈悲に過ぎず、衆生縁慈悲でもある。カウンセリングにおける慈悲心は相対世界の慈悲心であり、それによる苦を除き楽を与える共感も、相対世界の共感であり、それゆえに、その共感は苦を伴う共感である。言い換えれば、C1の苦悩にCoが共感すれば、C1は苦悩が減少し、安楽、仏教的には安らかで心地よい状態、いわゆる幸福になるが、苦悩そのものがなくなることはなく、いわゆるCoの苦悩もなくなることはない。たとえ両者に生じた安楽といえど、それは一時的なものに過ぎない。

カウンセリングは苦楽相対の世界であって、苦楽絶対の世界ではない。苦楽相対の世界であるからこそ、Coの共感も生じ、関係が深化すれば、C1とCo両者お互いに共感し合うことも生じるのである。